

# 兵庫の林業

令和6年度 兵庫県林業関係予算の概要  
 県民緑税による竹林整備地を活用した森林環境教育への取り組み



## もくじ

兵庫県関係幹部異動者のあいさつ・	1
県林業労働賞受賞者紹介、新たな県	
林業士の紹介・・・・・・・・・・	2
県立森林大学卒業生の進路・・	2
令和6年度	
林務課予算の概要・・・・・・・・	3～5
治山課予算の概要・・・・・・・・	5～7
自然鳥獣共生課(野生鳥獣対策関連)予算の概要・	8
狩猟免許試験のご案内・・・・・・・・	9
林業技能講習等のご案内・・・・・・・・	9
△普及だより▽	
県民緑税による林業整備地を左森林環境教育への取組・	10
森林ボランティア活動紹介・・・・・・・・	11
木材市況・住宅着工数の報告・・	11
兵庫県新しい働き方モデルオフィス再試行・	12
「ひょうごの木物語」第8回(裏表紙	
題字・	
兵庫県知事 齊藤元彦氏	

## 表紙の写真

日本最古の木造灯台であり、最古の現役航路標識「今津燈台」(西宮市今津 大関酒造所有)です。1810年大関酒造の前身長部家5代目長兵衛によって設置されました。灘五郷で造られた酒が樽廻船によって、今津港から「下り酒」として木綿や干し鰯などとともに江戸に運ばれた際の航路の安全を守っていました。

2023年9月には、県の津波防災対策により、160m南西の対岸に移設され2024年4月より、再び現役の航路標識として再点灯しています。

## 林務課長就任のご挨拶

林務課長 河田 尚 顯



このたび、林務課長を拝命しました河田でございます。平素から、林業の振興、木材の利用促進など森林・林業行政の推進にあたり、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本県では、農林水産行政を推進する指針として「ひょうご農林水産ビジョン2030」を策定しています。“多様で健全な森林のもと、公益的機能の発揮と資源の循環利用が実現”している姿を展望し、林務課に関連する推進項目として「森林資源の循環利用と林業経営の効率化」「県産木材の利用拡大と加工流通体制の強化」「森林の適正管理の徹底による公益的機能の維持・向上」を位置付けています。

人工林資源がますます成熟しています。国産材需要に応えるため、これまでの搬出間伐に加え、主伐・再造林による素材生産が増えつつあるのが全国的な傾向です。無計画で過度な主伐（皆伐）は造林未済地の増加につながる恐れがあります。昨年度に作成した「主伐・再造林低コスト普及モデル」をも

とに、収益性が見込める施業地では主伐・再造林を進めていけるよう、皆様方のお力添えを賜りながら、技術的支援を展開してまいります。

県産木材の利用拡大を図るためには住宅分野での使用割合を高めていくことはもちろんですが、「ひょうごの木」のブランディングを高めつつ、非住宅分野での木造・木質化が求められます。昨年度、本県では「兵庫県建築物木材利用促進方針」を策定し、兵庫県建築士会と木材利用促進協定を締結しました。今年度は市町における利用促進方針策定の働きかけを進めつつ、非住宅分野での取り組みを強化してまいります。

今年度から森林環境税の徴収がはじまります。本県においても引き続き、市町とともに、奥地等条件不利地における間伐の推進や公共施設等の木造・木質化の促進につながる積極的な活用に努めてまいります。

また、今年度から「次期ひょうご農林水産ビジョン」の策定作業が始まります。分収造林事業のあり方の検討は大きな課題です。これらの課題にも真摯に向き合い、皆様方とともに多様で健全な兵庫の森林を次代につなげてまいりたいと考えています。今後とも、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 治山課長就任のご挨拶

治山課長 峯 陽治郎



このたび、治山課長を拝命しました峯でございます。

平素は、兵庫県の森林林業行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

治山課は治山ダム等の設置を進める「治山対策」、人工林の間伐、里山林の再生や県民総参加の森づくり推進に取り組む「新ひょうごの森づくり第3期対策（令和4～13年度）」、県民緑税を活用して、流木・土砂被害対策、人家裏山や六甲山系での防災林整備、バッファゾーン整備等による野生鳥獣被害対策に取り組む「災害に強い森づくり第4期対策（令和3～7年）」、特定の公共目的の達成を確保する「保安林制度」、太陽光発電施設設置等の適正な開発誘導を図る「林地開発許可制度」、ナラ枯れ等による二次被害を防ぐ「森林病虫害対策」等を所管し多岐に渡っています。

これらの対策は、本県の森林林業施策のうち「森林の有する公益的機能の発揮に関する分野」を担っており、これらの実行にはコストがかかりますので、引き続き県民に対する説明責任を果たしてまいります。さて、昨年10月に内閣府が実施した「森林と生活

に関する世論調査」によると、「ここ1年で、何回くらい森林に行きましたか。」の問いに「行っていない」と答えた人が47.4%もおられ、コロナ禍の時には田園回帰とも言われ、森林にも関心が高まりましたが、再び都市部回帰になっているのかもしれない。そして、「あなたは、森林のどのような働きを期待しますか。」の問いには、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」が67.6%と災害を抜いて1番になったようです。

このように、社会情勢の変化がさらに早くなる中、国民・県民にとって、山への関心が薄れてきているのではないかと危惧です。災害防止と温暖化防止は互いに関連し、双方にとって治山対策、森林整備対策はプラス効果になることを今一度、PRすることも必要です。もちろん、木材生産も大変重要な機能・役割です。ご承知のとおり、本県森林林業を取り巻く環境はかつて経験したことがないほど、大変厳しい状況ですが、林務課と緊密な連携を図って役割分担しつつ、森林組合等の事業者の方々との対話を通じて現場の声をくみとり、新たな展開につなげていければと思います。もちろん、全てにお応えできる訳ではありませんが。

いずれにしても、皆様方には、様々な面でご指導、ご協力を賜ることになると考えておりますので、何卒よろしく願いいたします。

## 令和5年度「林業労働賞」受賞者及び「兵庫県林業士」の紹介

兵庫県林務課

令和5年10月に、「林業労働賞」受賞及び「兵庫県林業士」認定された方々を紹介します。

「林業労働賞」受賞者の方は次の4名です。

- 小椋 堅太郎（しそ森林組合）
- 澤田 裕也（豊岡コウノトリ森林組合）
- 今井 徳幸（北但西部森林組合）
- 吉田 政則（養父市森林組合）

「林業労働賞」は、森林・林業の担い手である林業労働者の組織的・安定的な確保を図るため、林業労働力の確保・育成に功績のあった方を表彰します。

今回表彰された方々については、地域林業の要として信頼も厚く慕われている存在であり、また発展に向けて大きく貢献されています。みなさまの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

「兵庫県林業士」に認定された方は、次の4名です。

- 衣笠 拓也（株式会社 山田林業）
- 山根 一広（株式会社 豊岡森林）
- 山中 伸治（丹波市森林組合）
- 足立 智宏（丹波市森林組合）

兵庫県林業士は、県内の林業従事者のうち、森林整備や林業活動の経験が長く、優れた知識や技術を持ち、林業労働者の模範となる方が事業体より推薦され、知事から認定されるものです。

今回認定された方については、地域の林業従事者の中核的存在として、ますますのご活躍を期待いたします。



写真右から足立智宏氏、服部副知事

写真左から澤田裕也氏、吉田政則氏、山根一広氏

## 兵庫県立森林大学校 卒業生の進路等について

森林に関わる幅広い人材を育成する西日本唯一の専修学校である兵庫県立森林大学校では、去る3月19日、第6回卒業式を行い、14名が社会人として巣立っていきました。卒業生の進路等については次のとおりです。

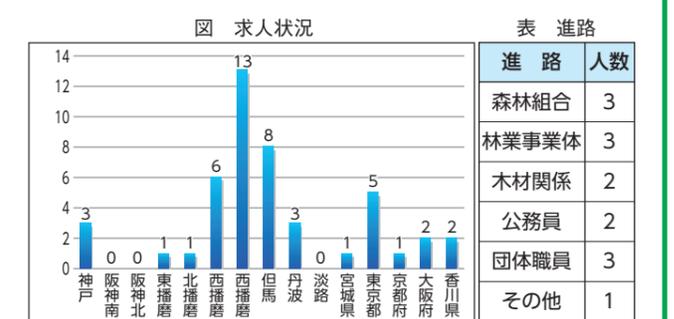
○ 求人状況  
右図のとおり、県下各地、県外合計46社から合わせて117名の求人情報がありました。

○ 進路  
卒業生（6期生）14名の進路については、右表のとおりで、9割が森林・林業・木材関係の仕事に就職しました。

卒業生の今後の活躍を期待しています。

○ 学外就業体験と就職  
本校では、就業イメージを掴み、実社会への適応能力向上を図るため、企業・団体の皆様にご協力いただき、2年間で6週間の学外就業体験（インターンシップを含む）を実施しています。第1期生～6期生で学外就業体験等の受け入れ先企業に就職を決めた学生は、合計39名（卒業生第1期生～第6期生の合計86名）と全体の約5割となっています。

学外就業体験等の実施にあたっては、個別に受け入れをお願いするほか、企業・団体の皆様からの希望も受け付けております。就職につながる貴重な機会となりますので求人票を提出する際に、一言お声がけください。



### 公開講座について

当校研修課では、森林・林業、木材に関わる事業者のスキルアップ研修や、一般県民に興味や関心を持っていただくための様々な講座を主催しています。詳細は県HPに掲載しています。



県内では、大型製材工場やバイオマス発電燃料による木材需要の増加により、原木生産量は平成25年度の24万m<sup>3</sup>から令和4年度の59万m<sup>3</sup>へと大きく増加しています。

このような状況に対応し、必要な需要量を持続的に供給していくため、搬出間伐の促進とともに主伐による原木供給と再生林による資源循環型林業の確立に向けた取組を進めます。

また、市町による森林環境譲与税を活用した非経済林の間伐や「新たな森林管理システム」が円滑に進むよう「ひょうご森づくりサポートセンター」等を通じた市町支援を展開します。

県産木材利用促進については、「兵庫県産木材の利用促進に関する条例」に基づき、川上から川下までの関係者の連携と協働により、建築用材と燃料用材の2本柱でさらなる利用拡大に取り組みます。

凡 例

- 【緊急】：森林林業緊急整備事業（県事業名）
- ㊦：令和5年度県補正予算措置分
- 【新】：新規事業
- 【拡】：拡充事業
- ※金額は令和6年度県当初予算ベース

1 多面的機能の発揮に向けた森林整備

(1) 多様な森林の整備

人工林のうち、育成単層林については、気象災害等に配慮しつつ、間伐等を推進するとともに、地形や地質等により条件の悪い森林については、針広混交林化や天然林へと誘導する等、多様で健全な森林の整備を図る。



主伐・再生林地

また、資源循環型林業の実現に向けて、主伐後の再生林に対する支援を実施する。

造林事業	1,650,000千円
（うち花粉発生源対策【拡】	183,000千円）
造林事業（R5当初→R6繰越）	54,659千円
（うち花粉発生源対策	25,961千円）
造林事業（R5経済対策補正）	㊦ 413,073千円
【緊急】間伐（R5経済対策補正）	㊦ 319,202千円
重要水源林機能高度化事業	12,000千円

(2) 施業集約化の促進

森林施業の集約化を促進するため、森林経営計画の作成や森林境界の明確化等を支援する。

森林整備地域活動支援事業	13,998千円
--------------	----------

(3) 生産基盤の整備

ひょうご農林水産ビジョン2030の中間目標（令

和7年度）達成に向け、令和7年度には、製材工場等に必要316千m<sup>3</sup>/年の原木と木質バイオマス発電向けの燃料用として見込まれる211千m<sup>3</sup>/年を合わせた527千m<sup>3</sup>/年の原木を低コストで安定的に供給できるよう、森林施業の団地化、林道や作業道等の林内路網の整備及び機械化などを支援する。



搬出間伐

① 作業道整備及び機械化の推進

【緊急】林内路網整備	㊦331,480千円の内数(TPP関連)
森林資源活用システム整備事業	60,000千円
県産木材利用促進特別融資事業	50,000千円
【緊急】高性能林業機械等導入	㊦331,480千円の内数(TPP関連)

② 林道整備の促進

ア 幹線林道の開設	森林基幹道開設：須留ヶ峰線、千ヶ峰・三国岳線
イ 支線林道及び路網拠点整備	林業専用道：能栖線、大畑越知線 路網拠点整備：須留ヶ峰線ほか1路線
ウ 林道の機能強化、維持管理	林道改良：瀨川・氷ノ山線ほか11路線
エ 林道施設災害(県営、市町営)	
【林道事業費】	
公共林道事業費	504,347千円
	㊦217,000千円
県単独林道事業費	340,400千円
県単林道事業費(管理費)	50,542千円
林道施設災害復旧事業費	140,000千円

(4) 林業技術の普及

林業普及指導員による林業技術の普及指導活動や指導林家等・林研リーダー研修等を通じて、地域リーダーや後継者を育成する。また、市町村森林整備計画や森林経営計画の作成実行を技術面で市町を支援する「地域森林総合監理士（フォレスト）」を育成する。

林業技術普及費	4,643千円
---------	---------

2 林業の担い手の育成

(1) 次代の森林林業を担う人材の育成

県立森林大学校において森林経営から森林セラピーや獣害対策に至るまで、森林に関わる人材を幅広く育成する。

また、即戦力となる人材に対して給付金を交付する。

兵庫県立森林大学校運営費	48,987千円
緑の青年就業準備給付金	14,811千円

(2) 林業事業者の育成・確保

収益性の高い低コスト林業経営モデルの確立に向け、県立森林大学校研修科において林業機械高度化コースや森林経営高度化コースなど高度なカリキュラムを実施し、林業事業者における森林施業プランナー、現場技能者等の能力を高めるとともに、林業労働者の就労環境の改善、労働安全衛生の向上を図る。



路網作設スキルアップ研修

兵庫県立森林大学校運営費 48,987千円(再掲)  
林業労働力育成対策事業 1,148千円

(3) 林業・木材産業の経営基盤の強化

林業・木材産業事業者に対して、低利・無利子の資金を融通することにより、林業及び木材産業の健全な発展、木材生産及び流通の合理化の促進を図る。

林業・木材産業改善資金貸付金	100,000千円
木材産業等高度化推進資金	780,007千円
県産木材利用促進特別融資事業	50,000千円(再掲)

3 県産木材の供給体制の整備と利用拡大

(1) 県産木材の供給体制の整備

品質向上や供給体制の確立に向けた木材乾燥機など木材加工流通施設の整備により、県産木材の品質向上や供給体制の整備を図る。

林業構造改善事業	12,100千円
----------	----------

(2) 県産木材の利用拡大

① 公共・民間施設の木造・木質化の推進

展示効果が見込める公共施設や民間施設での木造化、木質化を進める。また、建築士及び発注者等に対して、非住宅木造建築に関する研修会を開催する。



「ひょうご木の街木質化推進事業」を活用して木質化した民間施設

ひょうご木の街木質化推進事業	12,000千円
非住宅木造建築研修会の実施	500千円
木造を推進する建築士養成講座の実施	4,560千円

② 県産木材を使用した住宅の建設促進

県内工務店による県産木材を利用した魅力的な木造住宅の設計及び「ひょうご木の匠の会」加入工務店グループによる県民向け住宅展示・相談会の開催を支援するとともに、「ひょうごの木の家」設計支援事業について、横架材に県産材を使う設計をした場合、基準補助額300千円/件に100千円/件を加算し、400千円/件を支援し、県産木材の利用意義のPRと県産木造住宅の建築促進を図る。

「ひょうごの木の家」設計支援事業	51,500千円
「ひょうごの木の家」建築促進事業	2,000千円

③ 県産木材を使用した木製品の普及

県産木材を使用した製品の取扱事業者を「ひょうご木製品マイスター」として登録し、木製品活用事例集等により広く県民に紹介することで、県産木製品の普及・導入促進に繋げ、県産木材の利用拡大を図る。



県産木材製品

【拡】ひょうごの木づくり啓発推進事業 580千円

④ 県産木材の利用意識の醸成

住宅建築を検討している県民等を対象に、山での伐採作業から製材所での加工の様子や県産木材を使った木造住宅等の現地見学及びHPやSNSを通じた県産木材に関する情報発信を通じて、県産木材の利用意識の醸成を図る。また、令和6年度からは、異なる業種・分野・文化の視点を取り入れたブランディングやPRの企画を発案する場である「ひょうごの木」Creation Baseを設置し、県産木材に興味のない県民へのPR強化を図る。

ひょうごの木づくり普及啓発 11,880千円

⑤ 木質バイオマスの利用促進

未利用間伐材等を仕分け・ストックする山土場整備、購入資金等に対して支援するほか、燃料用チップ供給施設の整備を支援する。



木質バイオマス発電所

バイオマスヤード整備事業	1,350千円
県産木材利用促進特別融資事業	50,000千円(再掲)
林業構造改善事業	12,100千円(再掲)

4 森林環境譲与税を活用した森づくりの推進

平成31年度から導入された森林環境譲与税を活用し、市町が行う森林整備等を支援する。

(1) ひょうご森づくりサポートセンターの設置

県がひょうご森づくりサポートセンターを設置し、森林経営管理法制定を受けて市町が実施する森林経営管理法業務や森林整備事業業務、航空レーザー測量等のICT技術活用など市町業務を総合的に支援する。

また、市町に加え「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」第15条に規定する建築物木材利用促進協定を締結又は締結する見込みの民間事業者に対しても、木材利用を促進するための技術者の派遣等を行う。

ひょうご森づくりサポートセンター設置事業	61,119千円
----------------------	----------

(2) **森林クラウドを活用した森林情報の高度化**  
 令和2年度に導入した森林クラウドシステムの適正な運用を行うとともに、システムに搭載する森林情報の精度向上を図り、円滑な森林整備の実施につなげる。

森林クラウド活用情報高度化事業 31,040千円

(3) **県立森林大学校を活用した市町職員養成講座の実施**

市町職員の専門能力向上を目的とした養成講座（森林林業の概要と実務、木材利用の実務、森林GIS等）を実施する。



市町職員養成講座

森林大学校を活用した市町職員養成講座の実施 7,148千円

(4) **林業災害防止研修の実施**

急増する急傾斜地等の条件不利地での立木伐倒作業等を安全に行う技術指導ができるリーダー人材を育成する。

伐倒練習機等を活用した林業災害防止研修の実施 3,675千円

(5) **リモートセンシング技術者養成研修の実施**

森林整備の急激な増加に対応するため、ドローン等を活用したリモートセンシング技術習得による測量業務を安全かつ円滑に実施するリーダー人材を育成する。

リモートセンシング技術者養成研修の実施 1,100千円

(6) **県産広葉樹苗木生産者育成研修の実施**

県産広葉樹苗木需要の増加に対応するため、生産者の確保及び技術継承を目的に、苗木生産技術習得に係る研修会を実施する。

県産広葉樹苗木生産者育成研修の実施 976千円

(7) **ひょうごの森づくり・木づかい普及啓発**

県民の森林環境税への理解を深めるため、森林環境税の趣旨や森林の公益的機能、木材利用の意義、市町の森林環境譲与税を使った取組等を紹介するフェアを開催する。

森づくり・木づかいフェア開催 1,700千円

(8) **Jクレジット制度普及啓発**

市町のJクレジット制度活用取組を推進するため、制度の普及啓発及びJクレジット発行に向けた資料作成を支援する。

さらに、クレジット販路の拡大に向けた取組として、クレジット購入企業向けのセミナーを開催し、企業とプロジェクトとのマッチングを促進する。

Jクレジット制度取組支援事業 3,300千円

## 令和6年度 治山課

### 予算の概要

治山課では、森林の持つ公益的機能が高度に発揮されるよう、近年、激甚化する山地災害への対策、豊かな森づくりの推進に取り組みます。

○ 山地災害への対策では、国の国土強靱化加速化対策とあわせて県の「第4次山地防災・土砂災害対策計画（令和3年度～令和7年度）」に基づき、人家等保全対策や流木・土砂流出防止対策として治山ダム等の整備を進めます。また、山腹斜面对策として、土留工や法枠工、落石防護柵等の設置を進めます。

あわせて森林の持つ公益的機能の維持向上を図るため、過密化等した保安林での森林整備を行います。ソフト面では、山地災害危険地区の情報発信や山地防災教室の開催、地域での防災マップ作成等の減災支援対策などを行い、県民の避難行動に役立つ情報を提供します。

このような取組みから地域の防災力の向上を図り、総合的な山地防災・減災対策を推進します。

○ 豊かな森づくりの推進では、「新ひょうごの森づくり第3期対策（令和4年度～令和13年度）」に基づき、人工林の間伐対策や里山林の再生、及び県民総参加の森づくりの推進を基本に、森林の持つ公益的機能の高度発揮を図ります。

また、近年の記録的豪雨や台風による災害の甚大化、頻発化など依然として災害リスクは高まっており、今後も危険渓流等での継続的な対策が必要不可欠です。

このことから、県民緑税を令和3年度から5年間延長し、森林の防災機能を高める「災害に強い森づくり第4期対策（令和3年度～令和7年度）」に取り組み、渓流での流木・土石流被害対策として、簡易流木止め設置や、危険木伐採などの里山防災林整備等を進めていきます。

さらに、森林の保全・管理として、林地開発許可制度の適切な運用等や、森林病虫害被害対策に取り組み、県民の安全・安心な暮らしを守る「ひょうごの豊かな森づくり」を推進していきます。



人家等保全対策を目的とした治山ダム（豊岡市）



企業の森づくり（姫路市）

## 1 治山対策の推進

(1) 「第4次山地防災・土砂災害対策計画」の着実な推進（R3～R7年度）

第4次山地防災・土砂災害対策計画 着手箇所数（箇所）

区分	全体計画	R6計画
人家等保全対策	365	73
流木・土砂流防止対策	220	44
計	585	117

(2) **治山施設の長寿命化対策の推進**

令和2年度に策定した個別施設計画に基づき、既存治山施設の機能強化や長寿命化対策、並びに再点検を進める。

(3) **森林整備の推進**

森林の過密化等により機能が低下した保安林を対象に、本数調整伐等の森林整備を推進する。

【治山事業費】

公共治山事業費	3,794,000千円
県単独治山事業費	265,000千円
県単独緊急防災事業費	1,500,000千円
計	5,559,000千円
（別途5年度補正予算	470,000千円）

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」活用



山腹工による災害復旧（三田市）



小学校での防災教室（猪名川町）

## 2 新ひょうごの森づくり第3期対策の推進

（R4～R13年度）

(1) **森林管理100%作戦**

間伐が必要な60年生以下のスギ・ヒノキ人工林について、国の公共造林事業による間伐の補助残額を県・市町が連携して公的負担を行い、森林管理の徹底を図る。



間伐を実施した人工林（宍粟市）

・「森林管理100%作戦」推進事業[間伐：1,000ha] 12,436千円（※緑化基金）

※緑化基金：（公社）ひょうご農林機構が管理する緑化基金を財源として執行

(2) **里山林の再生**

集落周辺の生活環境や景観の改良のため、地域住民等による森林整備活動に対し、資機材の購入等の支援を行い、健全な里山林への誘導を図る。



地域住民による里山林整備（丹波篠山市）

（森林・山村多面的機能発揮対策交付金と一体的に実施）  
 ・住民参画型里山林再生事業[240ha]

6,475千円（※緑化基金）

(3) **多様な担い手による森づくり活動の推進**

農村の過疎化や高齢化等により里山林を管理する担い手が一層減少しつつあり、里山林をいかに維持管理していくかが、森づくりにおける課題として顕在化しつつある。そこで、若い世代の県民にも里山林への理解を深めるとともに、里山林を守り育てる意識醸成の場として、「ひょうご里山フェスタ」を開催する。

また、森林ボランティアの養成や、企業・団体等が社会貢献活動の一環として行う森づくり活動を支援し、「県民総参加の森づくり」を推進する。  
 ・「ひょうご里山フェスタ」の開催

1,020千円（※緑化基金）

・森林ボランティア養成講座の開催 1,000千円  
 ・企業の森づくり推進 1,226千円（※緑化基金）



ひょうご里山フェスタの開催（姫路市）

## 3 災害に強い森づくり第4期対策の推進

（R3～R7年度）

緑の保全及び再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、県民税超過課税である県民緑税を活用し、「災害に強い森づくり」を推進する。

【県民緑税充当事業】

・緊急防災林整備 683,523千円  
 [斜面对策：900ha、渓流対策：調査箇所20箇所、森林整備20箇所]

令和6年度 林務課 主な事業 当初予算額  
 24,882,219千円（対前年度比89.9%）  
 （+繰越R5→R6）26,548,772千円（対前年度比91.5%）

- 針葉樹林と広葉樹林の混交整備 294,000千円  
[計画調査設計175ha、作業道開設205ha、  
広葉樹植栽205ha]
- 里山防災林整備 528,360千円  
[基本計画調査200ha、整備200ha]
- 野生動物共生林整備 291,946千円  
[基本計画調査360ha、森林整備361ha]
- 住民参画型森林整備 27,000千円  
[森林整備20ha]
- 都市山防災林整備 61,000千円  
[基本計画調査40ha、森林整備40ha]



集落裏山の危険木伐採  
(新温泉町)



災害緩衝林と簡易流木止め  
施設の整備 (養父市)

#### 4 森林とふれあう公園の運営

三木山森林公園及びふるさとの森公園（地域住民・ボランティア等が中心となり運営）において、森づくり活動や自然観察のプログラム等の実施により、身近に自然と触れあう場を提供する。

- 三木山森林公園管理運営事業 109,113千円
- ふるさとの森公園管理運営事業 [6公園] 182,091千円

#### 5 県有環境林の管理

乱開発の抑制等を図るために取得し、良好な地域環境の保全等に寄与してきた山林について、森林の持つ公益的機能に着目し、県有環境林として適切な管理を行う。

- 県有環境林管理事業 [14地区2,303ha] 57,857千円

#### 6 森林の保全・管理

##### (1) 保安林の指定等

治山事業施行予定地などの保安林指定を進めるとともに、公益的機能の維持・増進に資する保安林の森林施業の確保、標識設置や伐採等の行為制限により保安林の適正な管理、保全を図る。

- 保安林等整備管理費 11,626千円

##### (2) 適正な開発行為への誘導

森林が持つ公益的機能を確保するため、地域森林計画対象森林における許可制度の適正な運用により、森林の保全を図る。

- 林地開発許可制度実施費 1,321千円

#### ○ 盛土規制法の対応 (県まちづくり部)

熱海市の土石流災害を受け、令和5年5月に盛土規制法が施行された。現在、規制区域の指定について隣接府県及び各市町と調整・協議されており、令和7年5月に規制区域が指定される予定である。

なお、規制区域指定については、関係団体への説明やパンフレット配布により、今後、周知される予定である。

#### (3) 森林の保全巡視

保安林等の森林において、無許可の伐採や開発行為等の早期発見、林野火災の予防啓発等を目的として「森づくり指導巡視員」を県民局・県民センターに配置し、森林の保全、啓発を行う。

- 新ひょうごの森指導巡視事業 9,028千円

#### 7 森林病害虫被害対策の推進

##### (1) ナラ枯れ被害対策



伐倒駆除 (三木市)

ナラ枯れによる倒木落枝による人的な二次被害が予想される森林、保安林等防災機能の高度発揮を求められる森林、景観悪化が懸念される森林において重点的に病害虫駆除等を実施する。

- その他法定病害虫駆除事業 35,438千円

##### (2) 松くい虫被害対策



地上散布  
(南あわじ市)

保安林等の公益的機能の高い松林等を防除区域と定め、地上散布及び樹幹注入等の予防対策と、伐倒駆除や造林事業(衛生伐)の駆除対策、枯れ松の伐倒を組み合わせ、松林機能の保全を図る。

- 予防対策(地上散布、樹幹注入) 3,732千円
- 駆除対策(伐倒駆除、特別伐倒駆除) 34,757千円
- ひょうご元気松植栽事業 1,100千円
- 森林病害虫防除予防推進費 674千円
- 県単独松くい虫被害等景観対策事業 7,695千円
- 計 47,958千円

令和6年度 治山課 主な事業 当初予算額  
25,609,947千円 (対前年度比102.2%)

※うち14,959,178千円は、県有環境林特別会計等への繰出金

### 令和6年度 自然鳥獣共生課 (野生鳥獣対策関連) 予算の概要

#### 野生動物被害防止総合対策の推進

シカ・イノシシの捕獲拡大により農林業被害は全体的には減少傾向にありますが、被害が増加している地域もあるため、地域の実情に応じた野生動物の①個体数管理、②被害管理、③生息地管理を総合的・計画的に進めます。

#### 1 シカ・イノシシ被害対策の推進

被害が大きく狩猟者が少ない地域等での有害捕獲の強化、狩猟期間中の捕獲の推進、集落ぐるみの被害対策に対する支援を実施します。

##### (1) 鳥獣被害集落自立サポート事業等 443,967千円

被害集落自らによる獣害防護柵の設置・点検・管理や野生動物の潜み場となる茂みの刈り払い等の被害対策の実施、出没を繰り返すシカ・イノシシ等の捕獲活動を促進するため、民間の獣害対策専門家によるカルテ・処方箋作成を支援するとともに捕獲と被害対策を担う集落リーダーの養成を行います。また、市町職員の対策技術・知識向上のための実践研修を実施します。



【集落での獣害防護柵設置】

##### (2) 捕獲の拡大 554,800千円

シカ4.6万頭、イノシシ2.5万頭の捕獲達成に向け、市町による有害捕獲に加え、狩猟期の捕獲報償金による捕獲促進、高標高等の有害捕獲が困難な地域や県境付近森林での捕獲を推進します。また、ICT活用等導入促進により捕獲を強化します。

##### (3) シカ丸ごと1頭活用大作戦 139,257千円

捕獲したシカを食肉など地域資源として有効活用を図るため、処理加工施設等の整備、捕獲個体の処理加工施設への搬入・回収支援、冷凍車等の導入を支援します。ひょうごジビエの日(毎月6(ロク=鹿)日、16(シシ=4×4)日、第4火(シカ)曜日)の普及啓発により、食肉・ペットフード等へのシカ肉の需要拡大を図ります。

さらに、販売ロットの確保とコスト削減を図るた

め、県内の処理加工施設のネットワーク化によるシカ肉、皮、角の広域的な集荷・流通を支援します。

加えて、ジビエ普及のため、ジビエコンテストの開催や、小中学校の学校給食へのシカ肉提供による試食機会を創出します。



【鹿のサルサ トルティーヤチップ添え】  
(R5ジビエコンテスト最優秀賞)

##### 2 ツキノワグマ出没被害対策強化 10,190千円

生息数が増加しているツキノワグマの集落への出没や人身事故の発生を防止するため、不要果樹の除去、集落周辺部での有害捕獲の強化、追い払い等を実施します。

##### 3 サル被害対策の強化 1,470千円

追い払い効果がない加害個体の捕獲を強化するとともに、市町でのサル群の動向追跡による出没情報の提供等を行うサル監視員の設置を支援します。

##### 4 カワウ被害対策の強化 5,345千円

アユ食害を与えているカワウの適正管理のため、「カワウ管理協議会」における関係機関(市町、猟友会、漁協等)の連携を進め、市町による営巣地での繁殖抑制や飛来地(銃猟可能なシューティングポイント)での捕獲等を支援します。

また、銃器を使用しない新たな捕獲技術の検証を行います。

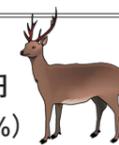
##### 5 狩猟後継者の確保・育成 62,080千円

狩猟への関心を高める狩猟体験会の開催、初心者向けの狩猟への理解を深めるPR等の実施により、狩猟者の確保を進めるとともに、高い技術を有する有害鳥獣捕獲者(カラー)の育成を進めます。

また、6月オープン予定の「県立総合射撃場」(三木市吉川町)と連携した狩猟者の確保や、安全意識の高い狩猟者の育成、経験・技量や獣種に応じた捕獲技術の習得を進めます。

#### 令和6年度 鳥獣対策関連予算額

・野生動物保護管理費 1,217,109千円  
(対前年度比 101.1%)



※イラスト(シカ):兵庫県森林動物研究センター提供

## 令和6年度狩猟免許試験のご案内

兵庫県では、今年度も次のとおり狩猟免許試験を実施します。多くの方が免許を取得されますよう、ご案内いたします。

### 【狩猟免許とは】

狩猟期間中にシカやイノシシなどの狩猟鳥獣を捕獲するのに必要な資格です。

また、県や市町の許可を受けて実施する有害鳥獣捕獲にも原則必要です。

### 【狩猟の楽しみと公益性】

狩猟は、ハンティングや料理を楽しむという魅力のほか、農林業被害を与える野生動物の生息頭数を適正に管理するという公益性も兼ね備えています。

### 【免許の種類】

- ・網猟（主に鳥類）
- ・わな猟（獣類のみ）
- ・第一種銃猟（装薬銃・空気銃）
- ・第二種銃猟（空気銃）

### 【試験の日程と場所】

#### 1回目

◇申込期間：5月13日(月)～5月31日(金)

◇試験日及び場所

- ・7月6日(土) 洲本市 ※わな猟試験のみ
- ・7月13日(土) 養父市



- ・7月26日(金) 神戸市
- ・8月3日(土) 姫路市

#### 2回目

◇申込期間：7月16日(火)～8月13日(火)

◇試験日及び場所

- ・9月6日(金) 神戸市
- ・9月15日(日) 姫路市
- ・9月21日(土) 神戸市

#### 3回目

◇申込期間：10月1日(火)～10月25日(金)

◇試験日及び場所

- ・11月30日(土) 姫路市 ※わな猟試験のみ

### 【お問い合わせ先】

兵庫県 環境部 自然鳥獣共生課  
☎078-341-7711 (内線3342)



## 初心者狩猟講習会のご案内

狩猟免許試験を受験される方を対象に、一般社団法人兵庫県猟友会が知識・技能に関する講習会を実施する予定です。

日時・場所については、5月上旬に兵庫県猟友会のホームページでお知らせいたしますので、各自ご確認ください。

### 【お問い合わせ先】

(一社)兵庫県猟友会 ☎(078-361-8127)

## 令和6年度の技能講習・特別教育等のご案内 林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部

### 1 はじめに

当支部では、林業・木材製造業の労働災害防止のため、労働安全衛生法に定められている林業・木材製造業の作業に従事するために必要な技能講習、特別教育等を開催しています。令和6年度は、右表の実施計画のとおり開催する予定ですので、関係する方々の受講をお願いします。

### 2 お申し込み方法

開催日1か月前を目途に、開催案内を当支部のウェブサイトに掲載しますので、申込要領に沿ってお申し込みください

### 3 お申し込み先、お問い合わせ先

〒650-0012

神戸市中央区北長狭通5-5-18

林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部  
(兵庫県木材業協同組合連合会内)

TEL 078-371-0607



<https://www.hyogomokuren.jp/rinsaibou/>

### 令和6年度 実施計画

区分	名称	実施年月日	開催場所
技能講習	木材加工用機械作業 主任者技能講習 登録先：兵庫労働局 登録番号：兵労基安 登録第46号 登録の有効期間満了日：2029年3月30日	令和6年 8月1日(木) ～2日(金)	姫路労働会館 (姫路市北条)
	特別教育 (チェーンソー作業従事者)	伐木等の業務に係る 特別教育	令和6年 4月24日(水) ～26日(金)
車両系木材伐出機械等 運転業務特別教育*1 { 伐木等機械 走行集材機械 簡易架線集材機械 (一般募集は若干名)		令和6年 7月10日(水) ～12日(金)	<実技> 中はりま森林組合 製材工場跡地 (神崎郡神河町)
		令和6年 11月6日(水) ～8日(金)	中はりま森林組合 製材工場跡地 (神崎郡神河町)
安全衛生教育	刈払機取扱作業 安全衛生教育	令和6年 6月7日(金) 令和6年 7月19日(金) 令和6年 9月20日(金)	中はりま森林組合 研修室 及び 土場 (神崎郡神河町)
	作業計画作成安全衛生教育*2	令和6年 6月7日(金)	中はりま森林組合 研修室 (神崎郡神河町)
		令和6年 9月4日(水)	中はりま森林組合 研修室 (神崎郡神河町)

\*1 原則として車両系建設機械技能講習修了者であること

\*2 現場作業に精通している現場責任者、作業班長等を対象

## 普及だより

### 県民緑税による竹林整備地を活用した森林環境教育への取り組み

淡路県民局 洲本農林水産振興事務所

#### 1 はじめに

洲本農林水産振興事務所管内では、竹林が放置されることによって、森林の土砂災害防止機能が低下したり、農作物等に被害を与える野生動物の潜み場になるなどの問題が発生しています。今回、県民緑税を活用した里山防災林整備事業により整備した竹林において、兵庫県立森林大学の学生に説明を行いましたので、その内容について紹介します。

#### 2 里山防災林整備の概要

令和3年度に山地災害防止機能等を高めることを目的として淡路市野田尾の集落周辺において1.77haの森林整備を行いました。このうち、0.90haが竹林であり、広葉樹林への転換を図るため面的に伐採し、伐採した竹は現地にて柵状に整理しました。



【竹林整備前】



【竹林整備前】

#### 3 学生への説明内容

森林大学2年生の学生14人が「里山論」の授業として淡路島を訪れ、竹の有効活用としてメンマ生産に取り組むNPO法人等の講義を受けました。メンマの試食もあり、学生達には非常に好評でした。

その後、竹林整備地に移動し、農林水産振興事務所職員が事業目的や整備内容を説明しました。整備後約2年が経過する中で、ウリハダカエデやカクレミノなどの木本類が順調に育ちつつある箇所がある一方、笹類が優先し、木本類を被圧している箇所もあり、現場条件により植生遷移に違いが生じることを理解してもらうことができました。

また、竹林に後戻りさせないためには、竹林整備後も地域住民による森林管理が欠かせないことも説明しました。学生達は受け身で聞くだけでなく、熱心に質問するなど、将来の兵庫県の森林を支えていく有望な人材であると心強く感じました。



【職員による説明状況】

#### 4 今後の取り組み

洲本農林水産振興事務所では、今回紹介したほかにも、木の良さを知ってもらうために小学校等に木製玩具・遊具を無償で貸出す淡路島「木育」推進プロジェクトにおいて森林環境学習を行っています。  
(<https://web.pref.hyogo.lg.jp/awk07/mokuiku.html>)  
今後も森林環境学習を継続することにより、広く森林への興味・関心を高めていくこととしています。

(森林課 梶並 紀雄)

## 森林ボランティア活動

### こしきいわの森を育てる会

会長 横田 茂

西宮を象徴する甲山の麓に越木岩神社があります。当会はその森で活動をしています。神社のご神体は、甌岩（こしきいわ）という一大霊岩です。大昔から祈りの場として存在していたのが、甌岩であったと言われています。

万葉集に「神社」と書いて「モリ」と詠まれている歌があります。昔の人は、神社と森を同一視し、神様がいらっしゃる場所はそのものであると思われ、何も持ち込まず、持ち帰らないという風習がありました。人の手が加わらず、本来の植生が残り、神社の森は学術的にも大変貴重なものとなります。越木岩神社の社叢も、その貴重さから、景観樹林保護地区、兵庫県天然記念物に指定され、ヒメユズリハが群生し、ツバキが咲き誇り、地域本来の自然を維持してきました。

しかし、住環境の変化、自然災害の影響を免れず、この自然の維持存続が憂慮すべき状況であったことから、この社叢を守り育てていこうと発足されたのが当会です。



甌岩（高さ10m、周囲30m）

活動は、神社関係者様の寛容な心や、地域や阪神米穀（株）様など賛同企業様の支援、県・市の文化財課・専門家からご指導いただきながら行っています。大半は、剪定作業、倒木や害木の除去作業などですが、倒木を利用したシイタケ栽培などもあり、楽しく会員間の交流も深めています。

昨年は「こしきいわの森クリーン大作戦」（神社子会主催）に協力し、地域の諸団体と共に社叢の整備活動を行いました。地域の関心が神社の森に向けられたことに少しは貢献できたのではないかと勝手ながら思う次第です。神域としても、自然環境としても、地域の宝である森を、神社関係者・近隣住民と共に守り、次世代に伝えていけるように今後も活動してまいります。



倒木を利用したシイタケ栽培



「こしきいわの森クリーン大作戦」集合写真

## 兵庫県新しい働き方モデルオフィス再試行

今年3月に公表された検証結果では、4割出勤のところ、4.5割出勤と目標に近く、モデルオフィス等に対する県民からのクレームは総応対件数の0.05%であったとされています。

また、職員アンケート結果によると、在宅勤務では電子データだけでは情報不足、オンラインでは正確な意図の伝達や気軽な相談が困難など業務効率の低下を指摘する声が多い一方、若い世代にはワークライフバランスが充実したとの声がありました。一方、フリーアドレスの評価では、同職員とのコミュニケーションがとりづらなどの課題が浮かび上がりました。

このような中、県農林水産部では、4月16日（火）から5月10日（金）まで、第2弾のモデルオフィスが再度試行されます。

## 編集後記

4月号は恒例ですが県林業関係予算を6ページにわたり紹介いただきました。淡々と書かれているようですが、行間には多くの県担当者の汗と努力と苦悩が滲んでいるのです。

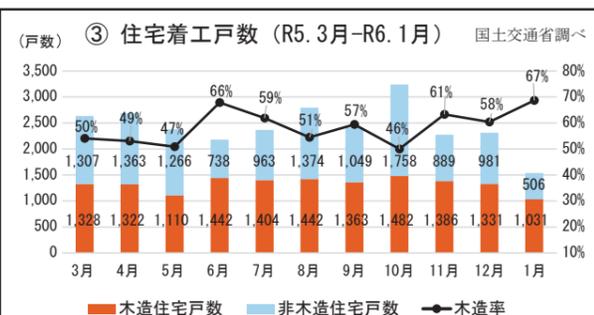
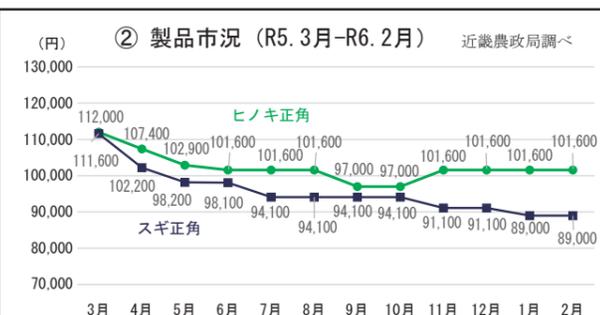
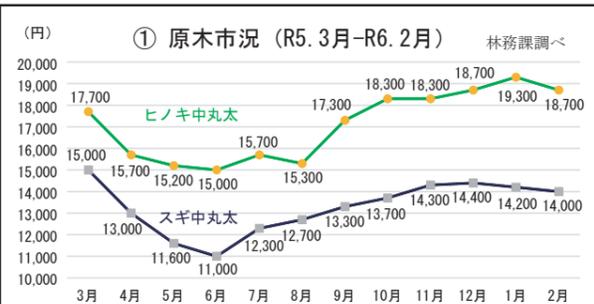
春は、異動の季節、自分では決められないのが人事です。不本意だった方は、本当は今がチャンスなのです、腐ってる間などないですよ、今こそ注目されているのです。30数年ぶりの林学の部長級職、逆風吹きすさぶ中、まことにおめでとうございます。（編集事務局）

## 兵庫県林業関係職員異動状況（所属長級 4月1日付）

【部長級】	農林水産技術総合センター所長 （農林水産部次長）	塩谷 嘉宏
【次長級】	森林大学校長 （森林林業技術センター所長）	谷口 俊明
【本庁課長・所長級】	林務課長 （加古川農林水産振興事務所長）	河田 尚顯
	治山課長（林務課長）	峯 陽治郎
	森林林業技術センター所長 （同森林活用部長）	山瀬 敬太郎
	朝来農林振興事務所長 （自然鳥獣共生課副課長）	竹中 寛
	丹波農林振興事務所長 （朝来農林振興事務所長）	高橋 徹
	（役職定年者） 治山課長	前嶋 昭
	（退職者） 3月31日付 森林大学校長	金子 哲朗

## ＜兵庫県内の原木市況・製品市況・住宅着工戸数＞

- ・原木は、ベイマツの代替需要が落ち着き、値上がり傾向が頭打ちし値下がり局面へ。
- ・製品は、住宅需要の減少に伴い、荷動き鈍く相場は停滞している。
- ・コロナ禍やウッドショックによる建築コストの上昇や賃貸住宅等への需要移行が進んだことにより、住宅着工戸数は例年よりやや減少している。



株式会社 グリーン興産

〒671-4141 兵庫県宍粟市一宮町東河内1003  
TEL 0790 (72) 1553 FAX 0790 (72) 2327

営業品目

- 森林部門 …… 素材生産・森林整備・危険木伐採
- 土木部門 …… 公共土木・一般土木工事
- 緑化部門 …… 公共緑化工事・一般造園工事
- 建築部門 …… 新築・リフォーム・エクステリア工事

E-mail: info@greenkousan.co.jp  
URL: http://www.greenkousan.co.jp

## 森林整備・造園・法面・土木・設計施工管理

緑と笑顔が私たちの基本です

# 株式会社 西村風昇園

豊岡本社 〒688-0051 兵庫県豊岡市九日市上町846-1  
TEL (0796) 23-5611 FAX (0796) 22-4529  
URL [http://fuukouen.com] E-mail [seifuu@skyblue.ocn.ne.jp]

- ・姫路本店
- ・神戸営業所

## 緑を育み水をつくる水源林造成事業

分収林方式により、水源林造成事業を進めています  
対象地は無立木地など、公益的機能の低下した水源かん養保安林です

国立研究開発法人森林研究・整備機構  
森林整備センター近畿北陸整備局

神戸水源林整備事務所 TEL(078)362-5800  
FAX(078)362-5802

兵庫県水源林造林協議会 TEL(078)351-3341  
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号  
(兵庫県林業会館内)



## 災害のない安全で安心な社会

- 治山、林道、造林事業の推進
- 山地防災・土砂災害対策計画

一般社団法人 兵庫県治山林道協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18  
TEL:078-371-0210 FAX:078-371-6632



HP 兵庫県治山林道協会



あなたの町の森づくり  
木材利用・木育をサポートします

## ひょうご 森づくりサポートセンター

森林環境譲与税や森林経営管理法に関すること、  
県産材や地域産材の利活用に関することなど  
何でもお気軽にご相談ください。

■神戸市兵庫区浜崎通5-6 ひょうご森づくりサポートセンター URL:www.hyogoforest.or.jp  
森林整備 ☎:078-599-7461 (ひょうご森林業協同組合連合会内)  
木材利用 ☎:078-381-0607 (兵庫県木材業協同組合連合会内)

三井化学 グループ エムシー緑化の松枯れ防除剤

松枯れ防止樹幹注入剤  
**マツガード®**  
**マツガードクイック®**  
ハダニの適用拡大

マツノマダラカミキリ後食防止殺虫剤  
**マツガードフラッシュ®**

販売元 **正和商事株式会社** 〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目3番4号  
TEL 06-6203-4541 FAX 06-6203-4347



ひょうご木の匠の会

## 兵庫県産木材の家

私たちは、兵庫県産木材を使い、人と環境に  
優しい木造住宅を提案し建築します。



ひょうご木の匠の会 会長 日置尚文 (日置建設(株))  
(事務局) 神戸市中央区北長狭通5-5-18 兵庫県林業会議  
<https://hyogo-kinotakumi.com> TEL:078-351-3341

## “治山・林道測量”

は経験と実績のある

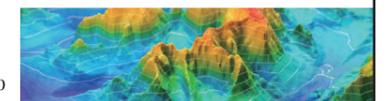
株式会社 **石原測量コンサルタント**

〒671-2542  
兵庫県宍粟市山崎町船元250-1

TEL (0790) 63-1377  
FAX (0790) 63-1398

E-Mail [ishisoku-y@wine.ocn.ne.jp](mailto:ishisoku-y@wine.ocn.ne.jp)

国土交通省登録第24891号  
県知事許可(般-2)第461481号



## 緑の募金へのご協力をお願いいたします

いつも緑の募金にご協力いただき、ありがとうございます。  
緑の募金は、森林ボランティア活動への支援や、  
子どもたちの環境学習などに活用しています。  
ご協力いただける場合は、次の方法をお願いいたします。

### ご寄附の方法

#### 1 金融機関からのお振込み

- ①郵便局 (手数料不要)  
専用の払込取扱票をお送りしますので、当協会にご一報ください。
- ②銀行 (手数料必要)  
口座：三井住友銀行 兵庫県庁出張所  
普通 3198438 公益社団法人兵庫県緑化推進協会



募金のページQRコード

#### 2 キャッシュレス決済 (手数料不要)

ソフトバンクの「つながる募金」からキャッシュレスでご協力いただけます。

### ●賛助会員入会のご案内●

私たちの活動を応援して下さる  
賛助会員を募集しています。  
入会金は不要です。  
会員としてご支援いただけますよう  
お願いいたします。(1口10,000円/年)

◇お問い合わせは◇

公益社団法人 **兵庫県緑化推進協会**

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号  
TEL 078-341-4070 FAX 078-341-4071  
HP <https://hyogo-green.net/>

兵庫県緑化推進協会

**Husqvarna**

■540XPMarkⅢ



■質量：4.1kg  
■排気量：39.1cm<sup>3</sup>  
■出力：2.8KW

■T540XPMarkⅢ



■質量：3.8kg  
■排気量：39.1cm<sup>3</sup>  
■出力：2.8KW

## 本当の価値がわかる方へ！

最高のパワーウェイトバランスで耐久性も抜群。  
生産性をさらに高めるチェーンソー  
革新的な技術を融合し、これまで以上の加速と  
トルクで他に類のない鋸断能力を発揮します。  
新登場540XPMarkⅢ、ぜひお試しください。

愛林興業株式会社

本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181番(代)  
神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570番  
但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101番

# ひょうごの木の物語

第8回 江戸中期から変わらぬ技で 酒樽づくり  
「たるや竹十」(神戸市灘区)

## 概要

神戸市灘区大石南町の「たるや竹十」(8代目店主 西北八島氏(74))は文政2年(1819年)から操業205年の酒樽の老舗です。酒樽は酒造会社で精製された酒を入れ運送する重要なアイテムです。100年生以上の吉野スギと竹で造られ、生産工程もほとんど昔からの手作業で、一人の職人が全工程をこなすという特徴があります。

## 歴史

酒造400年の歴史とともに江戸中期に酒樽づくりが始まり、最盛期には260軒の樽屋があったと言われています。灘五郷の酒は四斗樽に詰められて樽廻船で江戸に下り、波に揺られた酒は樽の中で吉野スギの香りと融合し、江戸ではひときわ香り高い芳醇な美酒になっていたと言われています。江戸に下れない品質の劣る酒は、俗に言う「くだらない」の語源とも言われています。

現在でも操業する樽屋は、灘に3軒、全国でも7軒程度と言われています。



樽丸材を吟味する



8mの竹材を巻いてタガを作る

## 樽の材料

酒樽は、自然素材のみで製作され、化学的な接着剤や釘は一切使用されません。樽の外板を樽丸と言い、柀目と板目の二種があります。樽丸の外側に白い辺材、内側を赤みの心材を使った樽を甲付(こうつき)と呼び、1本のスギから少量しか得られない最上質の樽です。樽底や蓋の接合部分は吉野スギのダボを使い、蓋の注ぎ口や樽下の出口のフタにはスギ丸太の芯材が使われ、蓋のフタは天星、酒の出口のフタは腹星と呼ばれます。

酒造会社社長の奨めで、兵庫県産スギを使って樽づくりをしてみたが、木目細かな適木が少なく、香りの面で酒との相性が良くないとのことでした。



「たるや竹十」8代目店主 西北八島氏



見世と呼ばれる職人の仕事場



樽の中を削るカンナ

## 樽づくり

樽職人は「見世(みせ)」と呼ばれる斜面の台座に座り、樽丸材を削ります。樽丸を削るカンナを「正直押し」と呼び、最も重要な工程です。

次に、鉄製の仮輪を抱えて内側に樽丸材を20枚前後並べ、隙間を三角形の板でピタリと納めていきます。8mの真竹は通直なものを使い、手で割り、全身を使って竹をしならせ、ビュンビュンと空中を舞わせてタガを組み上げる工程は迫力があります。そしてタガを樽の7か所に巻いて締めます。この締める部分だけ、専用の機械を使う以外はすべて手作業です。

昔は6~7人で70樽/日のペースで生産し(明治中期)、酒屋からは毎日70樽の注文があったようですが、今では3人の職人が12~20樽/日程度生産しています。高度成長期以降、プラスチックや瓶等の代替品に席捲されていますが、ホンモノの価値はますます高くなっています。

## 酒樽の用途

西北八島氏によると、酒樽は四斗樽(72ℓ)で酒造会社に納め、一度運搬用に使われると、酒樽としての再利用はされず、漬物や醤油用の樽に使われ、現在では、滋賀の熟れ寿司用や京都の漬物用として再利用されているようです。

## 将来の担い手

西北氏に9代目後継者は不在と聞きますが、近くの酒造会社に樽製作工場を設置し、社員に樽製作を指導し技術伝承が行われています。多くの酒造会社でも、同様に酒樽の自社生産に取り組みされているようです。



(「ひょうごの木の物語」取材チーム 菅原 健)